

伊豆諸島八丈島の旅

8期 篠島益夫

この夏は昨年的美ヶ原に続いて霧ヶ峰・入笠山を計画するも変わりやすい予報に振り回されて中止となりワングル仲間との旅はこの秋の八丈島となりました。

羽田からの ANA 便利用もあり時間的にはゆとりの旅でした。期間は10月15日～18日の3泊4日、関ヶ原の敗将で加賀藩ゆかりの宇喜多秀家の流刑地であり、その妻豪姫は前田利家の娘であった縁で流刑地の宇喜多家には扶持米や生活物資を廃藩置県に至るまで加賀藩が八丈島に届けたという加賀藩因縁の島でもありました。

10月15日(火)：舞鶴の高水間さんは高速バスで神戸へ、神戸の篠島夫妻と共に昼食を済ませて神戸空港から羽田へ、八王子の山中氏とは羽田の第二ターミナルで合流して ANA 便に。この日は八丈島への到着が17時頃なので「民宿あさぎく」に直行、夕食は地元の魚づくしの料理、この日の宿泊は我々4名だけ、この時期は釣目当ての客が多いとの話だった。夕食後の期待の星空観察は雲が多く諦めた。

10月16日(水)：7時半に予約のレンタカーが宿に届いたので8時には出発、天候は良さそうで島一周道路から八丈小島を展望して八丈富士7号目環状道路へ、ここは展望は良い三原山や島中央部の平地部と街並や空港など展望のある快適なドライブウエーだ。



大越鼻展望台・4人のメンバー・八丈小島

この道に八丈富士登山口があり、ここからは徒歩でお鉢巡りコース出発点をめざして階段道を登る事になる。登山に難のある妻はドライブウエーの先にあるふれあい牧場へ、3人は階段道を登る、予想外にシンドイ。9時に登山開始、最後まで階段道で途中2度休憩し

ながら10時10分に火口壁のお鉢巡り出発点に到着。30分ほど休憩と展望を愉しんでから2人がお鉢巡りコースから頂上までを往復する事にした。10時45分に出発、出発点には頂上まで15分、お鉢巡りは50分と案内プレートに書かれていたが溶岩の激しい凸凹地形でなかなか見えている頂上には近づかず、結局頂上には30分かかって11時15分に到着、標高854mの頂上標識がある。展望はお鉢巡り出発点では見えない火口底に近い火口湖も見え南側の三原山や太平洋が見えて雄大である。



八丈富士頂上・h854m

我々に先行していた若いカップルはお鉢一周の心算で出発して行った。写真撮影や休憩しながら二人を見ていたら此处までのピッチとまるで違う速さで進んでゆくのでこちらも頂上からしばらく歩いて見ると火口壁がこれまでとは違う草原になっておりピッチが上がっているのなるほどと分かった。我々はお鉢巡りコース出発点に戻るのに11時30分には出発して再び溶岩の凸凹コースで12時前には山中氏の待つお鉢巡りコース出発点に戻った。そこから登山口まで下山だが、右膝関節に問題のある私は登りと変わらない時間を要し13時過ぎにレンタカーの待つ登山口に戻った。環状道路沿いのふれあい牧場に立ち寄ったが食事場所がないので一旦街まで下りて昼食、再び島一周道路に戻り、溶岩流で出来た南原千畳岩海岸や宇喜多秀家と豪姫の碑などに立ち寄り、海水浴場のヤケンケ浜を通して展望地の大坂トンネル入口に向かった。この辺りからは三原山の山麓エリアになる。大坂トンネル展望所は八丈富士、八丈小島などが視界に入る景勝地という事だ。此处はカメラを持った人が多く、谷に架けられた高架橋歩道は賑わっていた。トイレも完備されているが、街以外では土産物屋や食事

処は無いのがこの島の特徴だ。



大坂トンネル展望所・八丈富士と八丈小島

三原山麓に温泉が7ヶ所もあるので此れを愉しむのも旅のメニューなのだが、宿泊地は三根地区で八丈富士に近くだが此方では温泉が無い。そこでこの日も夕方に民宿に入る前に三原山麓のふれあいの湯で汗流しとなった、源泉かけ流しは当然でやや熱く塩分が効いていた。民宿は魚料理主体ではあるが昨日とは魚の種類や調理法が変わっていた。食べ切るのが大変なボリュームだ。二食付きと言っても朝はおにぎりとお茶だけ、せめて味噌汁くらいは欲しいところだが、釣り客が多いので朝の出航が早く、それで良いという事らしい。夕食後の星空観察は雲もあり期待外れではあるが18日の一六夜に向けての雲間に上り始めの月は綺麗だった。

10月17日(木)：明け方に雨がかなり降ったらしく道にも水たまりが目立ったが予定通り空港近くの八丈植物園とヴィジターセンターから歩き始めた。飛行場と並んでいるので飛行機や青ヶ島へのヘリ便の音はよく聞こえるが植物園から空港が見えるわけでもなく其れらしい雰囲気だが説明版が無いので樹木名は分からないものも多かった。温泉の入浴料も安い(植物園も入園料は無い。東京都だから財政もゆとりが有るのだろう。ヘリも大島・三宅島・御蔵島・青ヶ島・八丈島・利島に東京愛ランドシャトルとして路線があるが観光ヘリに比べたら安い(船便の4倍以上はするとしても)。これも都が補助をしているのだろうと推察する。船便よりも就航率が高く便宜性は高いが欠点は乗客定員が9名なので予約が取れない事で我々も八丈から青ヶ島の旅は断念した。

この後、大里の玉石垣を見てから早めに昼食を済ませて三原山林道に入り頂上付近の登山道を探した、林道に入って標高が上がる程に雨が降り出してうんざりしたものの頂上に繋がる電波塔管理道路を見つけて進み最後は山中氏が徒歩で頂上への登山道を見つけたのでその付近に車を置いて登山道に入り200m程で頂上標識

のある三角点に着いたのでメンバーがその後に続いて頂上に達した。その頃、雨は止んでいたが頂上からの遠望はアウトだった。



大里・玉石垣群



三原山頂上・h700m

道幅が狭く雑木が道路にはみ出して走りにくい三原山林道を下りてからは伝統工芸的な黄八丈ゆめ工房に立ち寄り草木染や機織工程の説明を受けてから裏見の滝へ、滝を目指して山道を進んだが滝の音も谷川に水の流れも無い事に違和感を覚えながら片道15分も歩いて見たのは滴のような滝とは言えない崖沿いの水路、ちょっと呆れた風景だった、かなりの雨が降ったら滝になるかも。この旅での期待外NO1だった。

この日は島の南部の三原山周辺が多かったが、この後名古屋の展望台、八丈島灯台などを巡って最後にみはらしの湯での入浴だった。ここは期待通りの展望付の温泉で文句なし。展望の効かなかった三原山頂上や期待外れの裏見の滝などのマイナス気分が晴れた。

塩味の効いた展望温泉をゆっくり愉しんで今度は八丈一周道路の東側を通って3日目の民宿へ。この日の夕食は魚料理が多いものとうとう肉料理も出てきた。

10月18日(金)：この日は午前中がフリータイムなので郷土博物館や宇喜多秀家墓所などの以前に予定しながら行く事が出来て居なかった所を訪れた。郷土博物館では詳しい島の歴史や幕府直轄地としての統治など今まで知る事の無かった事が分かったり、感心したり。八丈島空港での昼食を済ませて帰路に着いた。おわり